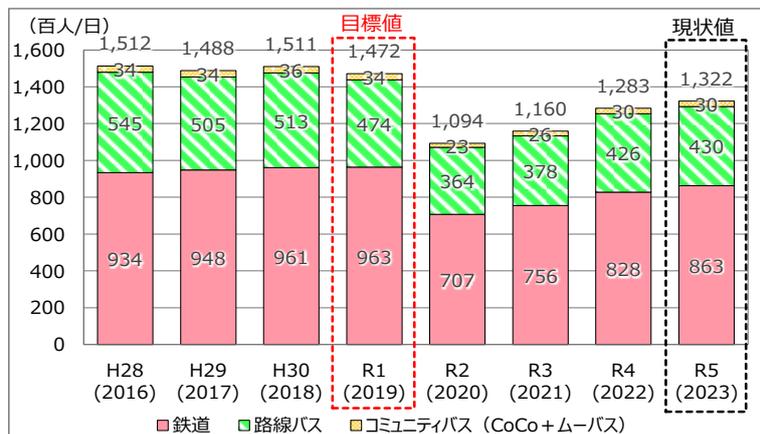


# 評価指標と目標値の設定

評価指標の目標値について、以下のとおり設定しています。

指標 1	公共交通利用者数（鉄道・バス）
算出・取得方法	<p><u>算出方法</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●（鉄道の1日あたり利用者数）＋（路線バスの1日あたり利用者数）＋（コミュニティバス（CoCoバス、ムーバス）の1日あたり利用者数）</li> </ul> <p>（鉄道の1日当たりの利用者数）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 市内の駅（武蔵小金井駅・東小金井駅・新小金井駅）を対象とした一日平均乗車数（路線バスの1日当たりの利用者数）</li> <li>➢ 市内を走る系統を対象とした年間利用者数を365日（うるう年は366日）で除した1日あたりの利用者数</li> </ul> <p>（コミュニティバスの1日当たりの利用者数）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 市が運行経費を負担する系統（CoCoバス全系統、ムーバス境・東小金井線）を対象とした年間利用者数を365日（うるう年は366日）で除した1日あたりの利用者数</li> </ul> <p><u>取得方法</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●鉄道は、各鉄道事業者のHPから取得（西武鉄道は「一日平均乗降人員」を2で除した数値、JRは「一日平均乗車人員」の数値）</li> <li>●路線バスは、各バス事業者から系統単位での利用者数を提供</li> <li>●コミュニティバスは、各運行事業者から系統単位での利用者数を提供</li> </ul>
現状値	132,250人/日 令和5年度実績 （参考）内訳：鉄道 86,286人、路線バス 43,014人、コミュニティバス 2,950人
目標値	147,000人/日 （参考）内訳：鉄道 97,000人、路線バス 47,000人、コミュニティバス 3,000人
考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数は減少。現在は回復傾向にあるが、生活様式の変化が生じており、今後も利用者数が大きく変化することは難しいと考える。</li> <li>➢ 一方で、令和13年度まで本市の人口は増加すると推計されている。</li> <li>➢ 人口増加を鑑み、実施する交通施策によって、新型コロナウイルス感染拡大前の水準まで利用を回復させることを目指して、令和元年度の利用者数を目標値として設定する。</li> </ul>

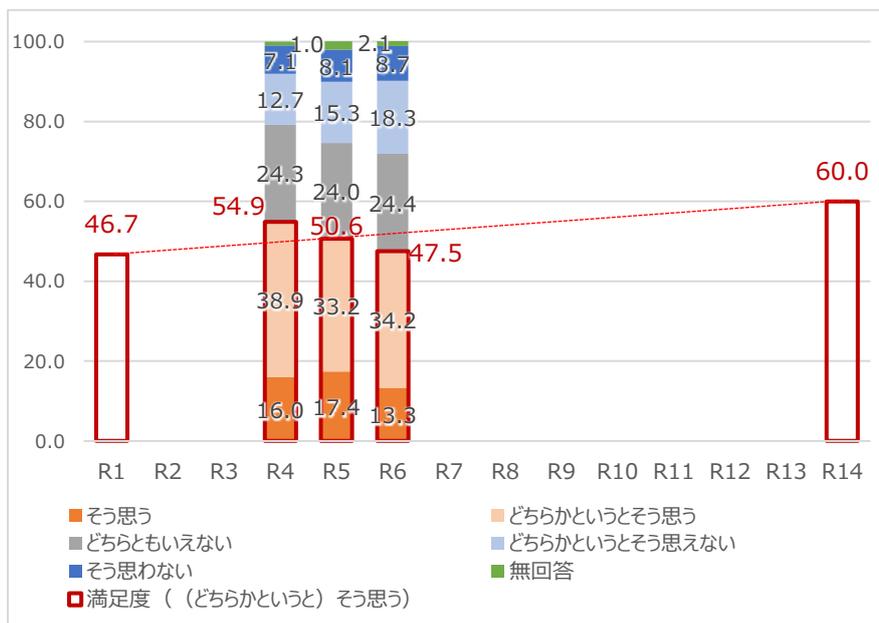
図表-1 一日あたり利用者数推移



指標2	市内公共交通の満足度
算出・取得方法	<p>算出方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケート調査で『市内の交通手段における利便性に満足している』という設問に対し、“そう思う”、“どちらかというと思う”と回答した人の割合</li> </ul> <p>取得方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 市長への手紙および市民意向調査における『市内の交通手段における利便性に満足している』への回答結果*を担当課から提供</li> </ul>
現状値	47.5% 令和6年度実績（市長への手紙）
目標値	60.0%（市長への手紙/市民意向調査）
考え方	<p>➢ 直近3年間（令和4～6年度）の中央値である令和5年度の値を使用し、令和1年度（46.7%）から令和5年度（50.6%）における満足度の伸び（年間0.975%増）をR14まで継続させることを目標として、60.0%で設定する。</p>

\*小金井市の長期総合計画にて指標となっているものについては、市長への手紙および市民意向調査にて、毎年アンケート調査を実施している。現在、第5次基本構想・前期基本計画にて『市内の交通手段における利便性への満足度』が指標となっているため、これを活用するもの。

図表-2 満足度の推移



※R1は小金井市第五次基本構想・前期基本計画の現状値、R4とR5は市長への手紙の集計結果から引用

指標 3	バスの利用環境（バス停、乗り継ぎ・乗り換え、情報提供）に対し特に不満に感じている人の割合
算出・取得方法	<p><u>算出方法</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケート調査で『バスの利用環境（バス停、乗り継ぎ・乗り換え、情報提供）』に対し特に不満を感じている人数の割合を算出</li> </ul> <p><u>取得方法</u> （現状値）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 令和 5 年度に実施した市民アンケートの設問『小金井市のバスについて、特に不満と思う項目を不満順で 3 つ回答ください』に対し、以下項目のいずれか 1 つでも回答した人の回答者数に対する割合 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルートや運行状況の情報提供</li> <li>・バス停の位置（自宅や目的地からの距離）</li> <li>・バス停環境（時刻表、屋根）</li> <li>・他の路線・交通手段との乗継（時間・距離）</li> </ul> </li> </ul> <p>（見直し、改定時）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 中間見直し時点、計画の見直し時点にてアンケート調査を実施し取得</li> <li>● アンケートでの設問項目は、令和 5 年度と同様もしくは、『バスの利用環境（バス停、乗り継ぎ・乗り換え、情報提供）に満足しているか』という設問で確認</li> </ul>
現状値	34.7% R5 年度実績（市民アンケート調査）
目標値	29.0%（アンケート調査）
考え方	<p>➢ 現状値の 34.7%に対して、指標 2「市内公共交通の満足度」での伸び率として、現状値（50.6%）、目標値（60.0%）と約 1.2 倍を目標としていることから、1.2 で除した <math>34.7 \div 1.2 \approx 29.0</math> を目標値として設定する</p>

指標 4	新たな技術の活用に向けた検討・協議体数
算出・取得方法	<p><u>算出方法</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新しい技術に対し、活用に向けた検討・協議の場や枠組みを構築した特定テーマ単位の数を計上</li> </ul> <p><u>取得方法</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 小金井市にて特定テーマでの検討・協議の回数を集計</li> </ul>
現状値	－（計画策定後の実施数をカウントするため現状値はなし）
目標値	4 件（市で把握）
考え方	<p>➢ 現在、市場に普及・一般化している GTFS や新しいシェアモビリティの 2 件については検討を実施する。</p> <p>➢ また公共交通連携（MaaS 等）や、最新の法制度改正（自動運転等）等など、ここ数年で進展する可能性があるものについては、2 テーマ程度は調査・研究を行うことを目標として、計 4 件とする。</p>